

硫黄島

○概況（平成 18 年 4 月）

30 日に気象庁及び海上保安庁が行った観測では、従来から見られていた弱い噴気が認められた程度で、火山活動に特段の変化はありませんでした。

30 日に気象庁長崎海洋気象台が海上から行った観測及び海上保安庁が上空から行った観測によると、島の北側に位置する硫黄岳火口（図 1、図 2、図 3）付近と島の中央部に位置するグスク火山火口（図 1、図 4）で弱い噴気が確認されました。このほか、長崎海洋気象台の観測では、風下側にあたる島の北東側で火山ガスによる臭気が確認されましたが、周辺海域に変色水は認められませんでした。各火口の噴気の状況は、2006 年 2 月 23 日に長崎海洋気象台が行った観測時と比べ特段の変化はありませんでした。

また、気象庁気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している地震観測でも、期間中の地震活動には特に異常はありませんでした。

なお、13 日午後、沖永良部島にある沖永良部測候所（硫黄島島の南東約 65km）において、かすかに感じる程度の臭気を一時的に確認しました。当時の気象条件から判断して、硫黄島島の噴気に含まれる火山ガスによるものと考えられます。沖永良部島では、これまでも同様な臭気が年に 1～2 回程度の頻度で確認されています。

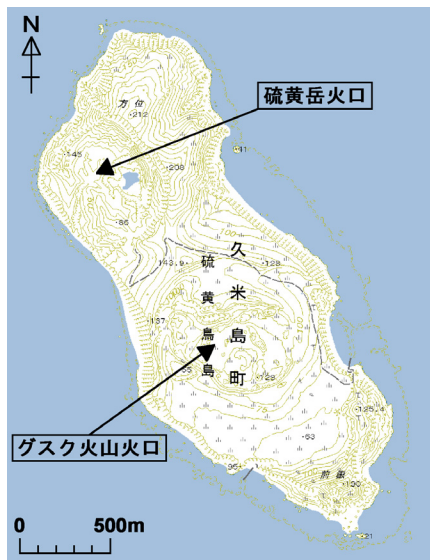


図 1 硫黄島 火口の位置図



図 2 硫黄島 硫黄岳火口（4 月 30 日）



図 3 硫黄島 硫黄岳火口（4 月 30 日）

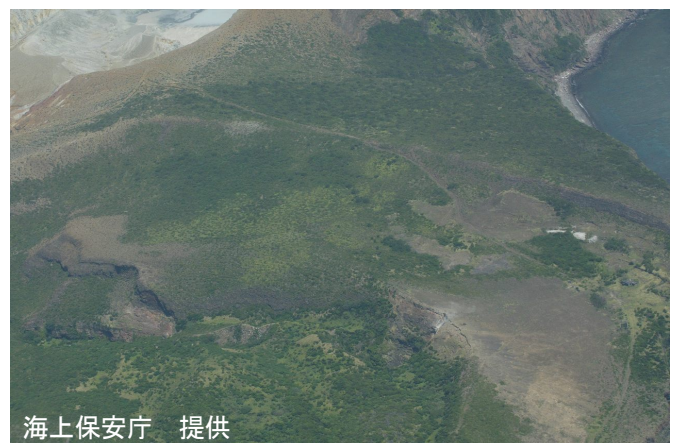


図 4 硫黄島 グスク火山火口（4 月 30 日）

※この資料は気象庁のほか、海上保安庁のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『25000 分の 1 地形図』を複製したものです（承認番号：平 17 総使、第 650 号）。